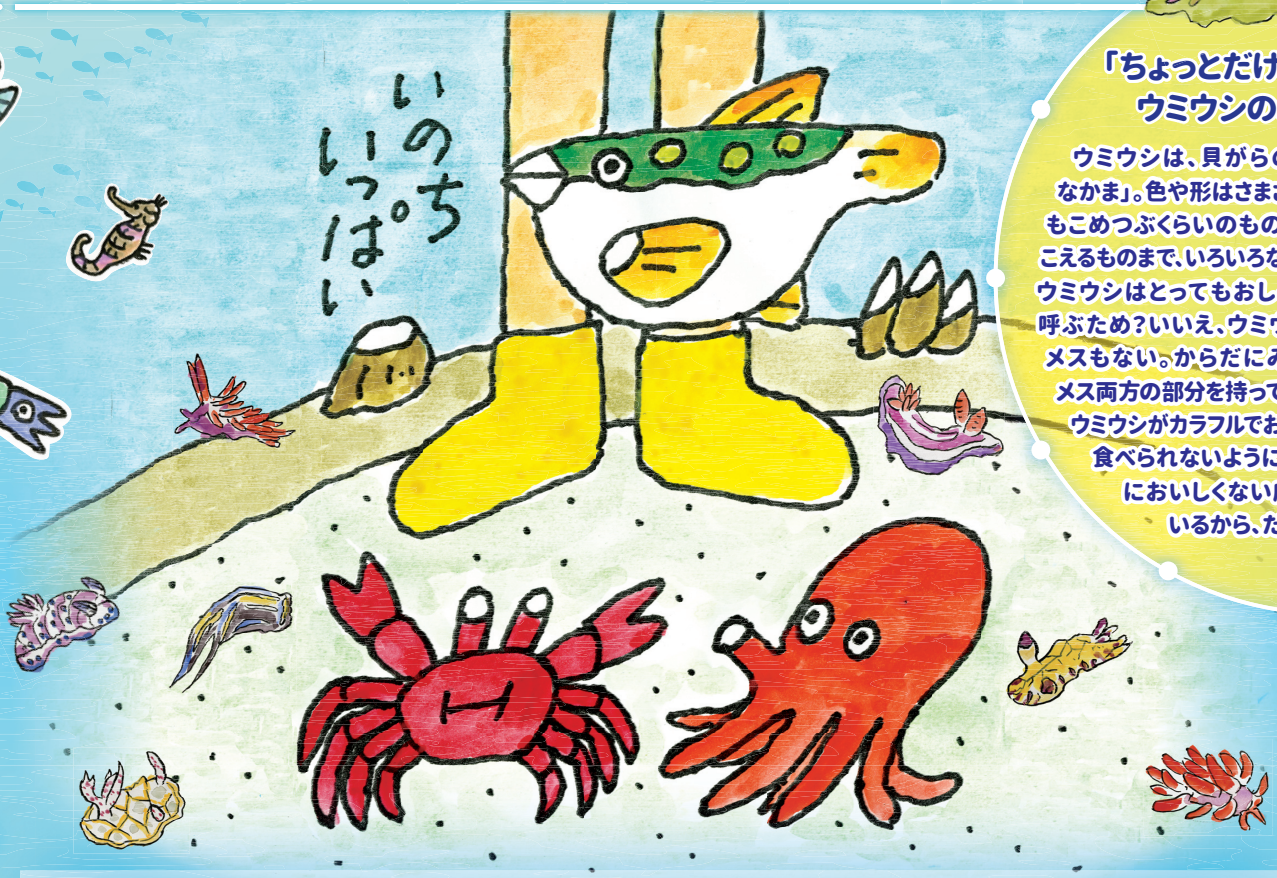
こどもと楽しむ自然の情報

しぜんにタッチ

第3号　おしゃれなウミウシ



「ちょっとだけ、ウミウシのおはなし」

ウミウシは、貝がらのない「貝のなかま」。色や形はさまざまで、大きさもこめつぶくらいのものから30㎝をこえるものまで、いろいろな種類がいる。ウミウシはとってもおしゃれ。メスを呼ぶため？いいえ、ウミウシはオスもメスもない。からだにみんなオスとメス両方の部分を持っている。

ウミウシがカラフルでおしゃれなのは、食べられないように、からだの中においしくない成分を持っているから、だって！

どれがウミウシ？

これらは生きもののからだの一部の写真です。どれがウミウシでしょう？

（ひとつとはかぎりません。こたえは次のページ）

この情報誌「しぜんにタッチ」は、こどもたちとそのご家族に、自然のおもしろさを発見するきっかけにしてもらいたい、という思いで作りました。今、自然に触れ合うことが少なくなりましたね。こどもたちだけではなく、お父さんお母さんも、自然の中で存分に遊んだ経験を持つ人は少ないのではないでしょうか。ときには、周りの自然をじっと観察してみませんか。ぜひお子さんといっしょに楽しんでください。

この情報誌は（公社）大阪自然環境保全協会と螢印刷㈱が協力して、不定期で発行しています。

海の中をのぞいてみよう

スナメリ

海の中には、どんな生きものがいるだろう？
クジラ？ ウミガメ？
そうそう、それから、いろんなさかな…

海の中をのぞいてみることができるかな？
ふかい海は　むりだけど
あさいところは、だいじょうぶ

しおがみちると、海の中になったり
しおがひくと、ゴロゴロ岩がつづいている
そこは「いそ」。
そこにも、いろんないきものがいるよ！

カニがいそいでにげていく
貝がはりついている
イソギンチャクが水をとばした！

「石をうごかしたら、
かならずもとにもどしておこうね。
生きものたちの大切なすみかなんだ。」

水の中の石をそっともちあげてみよう
かいそうのなかをしずかにみてみよう
小さなエビや、なにかうごくものがいるかもしれない

もし、ぬるっとして、ひらひらしていて、いろんな色をしていて、
かたつむりみたいに、あたまに小さな「つの」があれば
それは、もしかしたら「ウミウシ」?!

ウミウシたちは、とってもおしゃれ。
いろんなかたち、いろんな色。
みつけてちょうだい、って言っているみたい

ウミウシがめだつ色をしているのは、さかなたちに
「ぼくたちおいしくないよ」っていうことを
おぼえてもらうため、だって！
ほんとかな～？

アカウミガメ

「ほら、海に背をむけるとあぶないよ。
いつ大きな波がくるかわからないからね。」

◆大阪湾ウミウシ写真ずかん◆

ウミウシのなかまを紹介します。すべて大阪湾内で観察しました。　（カッコ内の数字はこの写真のウミウシのサイズです。）

（15ミリ）
サガミミノウミウシ

（25ミリ）
シロウミウシ

（30ミリ）
クリヤイロウミウシ

（40ミリ）
カスミミノウミウシ

（30ミリ）
クロシタナシウミウシ

（25ミリ）
クロコソデウミウシ

（25ミリ）
アオウミウシ

（15ミリ）
アカエラミノウミウシ

（20ミリ）
オトメウミウシ

（45ミリ）
クロヘリアメフラシ

クイズのこたえ：ぜんぶウミウシです！（クロヘリアメフラシもウミウシのなかまです。アメフラシをウミウシと呼ぶ地方もあります。）

蘊蓄 UNCHIKU

「ボクはおいしくないよ！」

ウミウシは、海牛と書きます。触角が牛の角のようにみえるところから名付けられたようです。触角とは言っても、嗅覚のための器官で、人間でいうと鼻と同じです。鼻の内側と同じようにひだがあり、においを感じる部分の表面積を広げて、水中でエサや同種の仲間のにおいをキャッチしていると考えられています。

ウミウシは小さくて華奢で、海中から出されるとペタッとつぶれてしまうほど、自分のからだも浮力だのみ。こんなか弱い生きものなのに、生き延びるためにはそれぞれ驚くべき戦略を持っています。たとえば、やわらかい体は岩の隙間や海藻の中に隠れるのに便利です。色鮮やかな海中の環境では、派手な体の模様は意外とわかりにくくなります。また、えさから得た物質で、捕食者が食べると一生、忘れられないような「まずさ」を感じさせることもしているようです。独特なデザインは、「ボクはおいしくないからね！」と覚えてもらうためかもしれませんね。

ウミウシはどんなえさを食べているのか、どんな生活をしているのか、まだわからないことが多く、飼育がとても難しいので、全国の水族館でもなかなか飼育されていません。大阪では海遊館が天保山マーケットプレースの中に、「ウミウシminimini水族館」を作っています。このミニ水族館はだれでも無料で見ることができます。磯で探す前に一度ウミウシというものを見てみたい、という場合はおすすめです。

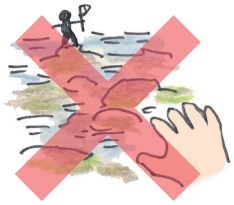
ウミウシをさがそう

大阪の海には、わかっているだけで200種類以上のウミウシがいます。季節によって見つかるウミウシはすっかりかわります。潮がひいたあとの「潮だまり」や海辺の石ころをひっくりかえすとみつかることがあるので、磁に出かけてさがしてみましょう。

- よく見てさがそう。見つからなければ、いろんな石をひっくりかえしてみよう。
- 石のうらについたウミウシは、水から上げるとわかりにくくなるので、もういちど石を海水につけると見つけやすい。
- 見つけたウミウシは、海水をいれたバケツなどにうつして、かんさつしてみよう。
- ウミウシの色や形やもようをよく見てみよう。
- かんさつしたら、もとのばしょにもどしてあげよう。

いそかんさつ（磁観察）で守ってほしいこと

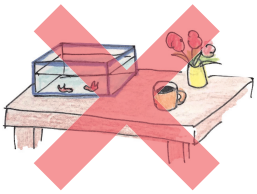
すべりにくい くつをはく



ひとりでとおくに いかない

うごかした石は もとにもどす

海にプラスチックは ながさない



生きものは海にかえそう。家でかうことはできない

しおがいちばん引くころには海から上がろう

おすすめのかんさつポイント

長松海岸

南海本線みさき公園駅下車。遊園地を突っ切るようにして海岸沿いに出たら、左へ進みます。海岸道路から磁に下りる階段が設置されています。大阪湾で数少ない自然海岸で、生物が豊富です。（徒歩30分）

加太城ケ崎・加太淡嶋神社前（かだあわしま）

南海本線和歌山市駅より加太線に乗り換え終点加太で下車。海のほうへ歩き、加太海水浴場を休暇村方面へ北上すると城ケ崎。加太漁港・汽船乗り場よりさらに西に進むと淡嶋（あわしま）神社があります。

（加太城ケ崎：徒歩40分／加太淡嶋神社（かだあわしま）：徒歩30分）

観察会に参加してみよう

ネイチャーおおさか（大阪自然環境保全協会）では、年間を通して海の観察会を実施しています。ウミウシの観察会も開催します。不定期ですので、ホームページの自然イベント案内で確認をして参加してください。（事前申し込みが必要な場合もあります。）

ホームページはこちらから

野外で活動するときのお約束

長そで、長ズボン、帽子をかぶってね。
のどがかわいていなくても、とちゅうでかならず水やお茶などをのみましょう。

「しぜんにタッチ」第3号　おしゃれなウミウシ
編集　しぜんにタッチ編集部
表紙イラスト・まんが　岡田三朗
発行　2019年　6月1日

公益社団法人 大阪自然環境保全協会
〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13-202
Tel：06-6242-8720　Fax：06-6881-8103
http://www.nature.or.jp/

螢印刷株式会社
〒559-0006 大阪市住之江区浜口西 1-13-3
Tel：06-6676-1900　Fax：06-6676-5522
https://www.hotaru-printing.com/

この情報誌に対するご意見・ご要望、および配布のご協力をぜひよろしくお願いいたします。

ご　意　見　Mail：touch@n-osaka.jp
くわしくは　http://www.nature.or.jp

本誌記載の記事・写真・イラストの無断転載を禁止いたします。